中級レベル文法クラスの実践報告

鈴木　秀明　　榎　陽子　　許　明子

要　旨

本稿では、2011年度１学期に中級レベルの日本語学習者を対象に行った文法授業について報告する。授業内では、新たに開発した教材『実用日本語文法』を使用して、文作り、間違い探しなど様々な授業活動を実施した。また、筑波大学のe-leaningシステムを活用したMoodleの練習問題を宿題として課した。コース終了時に実施したアンケート調査の結果から、1）学習者の授業に対する満足度は高かった、2）小テストとMoodleは学習者にとって有用であった、3）教材と小テストの難易度は適切であった、4）学習者はより難易度の高い練習問題に面白さを感じていた、5）学習者のレベルにより、面白いと感じる授業活動は異なっていたということ、がわかった。
【キーワード】中級文法　アンケート調査　Moodle　授業活動

A Report on an Intermediate Japanese Grammar Class

SUZUKI Hideaki, ENOKI Yoko, HEO Myeongja

【Abstract】This is a report on a Japanese grammar class held for intermediate level students, in the first term of 2011 at the University of Tsukuba. In this class, teachers used a new text, “Practical Japanese Grammar”, and practiced various activities in class, such as sentence writing and error analysis. Students were required to use Moodle at home to practice their grammar. The results of the end of term survey reveal that 1) students were satisfied with the instruction and materials, 2) the small quizzes and Moodle exercises were very useful, 3) the difficulty of small quizzes and Moodle exercises were appropriate, 4) students are interested in more difficult exercises, and 5) a students’ interests depend on their proficiencies.
【Keywords】intermediate level grammar, questionnaire, Moodle, activity

１．はじめに

筑波大学の留学生センターでは、中級以上の学習者は、自身の学習ニーズに応じて、規定の科目数まで技能別の科目を選択して履修することができる[1]。中級レベルに判定された学習者は、一通り初級の文法知識や語彙知識はあるものの、不正確な部分が多く、これらの言語知識を使用して産出活動を行うと不安定で、正確な文が産出できていないという現実に直面することが多い。また、中級学習者は学習者間の能力差が大きく、得手不得手の内容も異なるため、中級を指導する教員は様々な工夫をしている（許他 2009）。

留学生センターでは、こうした様々な背景や能力差のある学習者に効果的で有用な文法授業を提供するために、近年、文法を担当する教員は様々な工夫を凝らした実践を行っている。これまでには、大人数のクラス運営の創意工夫等を中心に報告した鶴町他（2008）や、実践的文法知識を習得し、運用能力の向上を目的として開発した教材および実践を報告した宮崎他（2011）がある。

本稿では、前半で2011年度の１学期に中級学習者を対象に、宮崎他（2011）で報告された『実用日本語文法』を使用した授業実践のコース概要について述べる。後半では、１学期の学期末に学習者に実施したアンケート調査の結果をもとに、今学期の授業実践や使用教材、学習課題などが学習者にどのように評価されているかを報告し、今後の授業改善に必要な要素を探る。

２．コース概要

2.１　対象学習者および学習到達目標

筑波大学留学生センターには初級J100から上級J900までのレベルがあり、初級レベル[2]を終えると中上級レベルでは技能別クラスになる。中上級以上の技能別クラスはJ500（中級初期レベル）からJ900（上級レベル）があり、本稿の報告はJ500からJ700レベルまでの技能別中級文法クラスが対象である。

中級文法の開講科目は４レベルで、クラス名はJ511（中級初期文法）、J611（中級前期文法）、J711（中級中期文法）、J811（中級後期文法）である（以下J511、J611、J711、J811とする）。初級レベルを終えた学生はJ511から学習を開始し、学期末の成績によってJ611、J711とクラスが上がっていく。レベル判定はプレイスメントテストもしくは文法レベルチェックテストによって決定していく。技能別クラスの授業は各科目週１回（75分授業）で、１学期に10回授業が行われる。筑波大学は３学期制であるため、１年間でJ511からJ711まで終了する。

本コースではJ400までの初級レベルの学習を終えた学生が、今まで勉強してきた文法項目について復習しながら、文型の使い分けや語彙を勉強し、中級レベルの文法を身につけることを目的としている。その中には初級レベルで学習した項目が含まれているが、中級

レベルでは使い分けなどを正確に理解したうえで運用能力をも身につけることを目指している。なお、使用教材の詳細に関しては、宮崎他（本論集掲載）を参照されたい。

2．2　使用教材

テキストは『実用日本語文法』を使用した。学習課は全24課であり、各レベルにおける学習課は表１のとおりである。

表１　各レベルにおける『実用日本語文法』の学習課

J511（１課～８課）	J611（９課～16課）	J711（17課～24課）
１課．指示詞	９課．並列	17課．敬語（特別な形）
２課．助詞	10課．名詞修飾	18課．敬語（規則的な形）
３課．複合助詞	11課．時の表現・テンス	19課．推量・伝聞
４課．の・こと・もの	12課．連用中止	20課．判断・義務
５課．原因・理由	13課．条件	21課．否定表現
６課．する・なる	14課．複合助詞	22課．授受表現
７課．いく・くる	15課．自動詞と他動詞	23課．受身
８課．目的・可能・願望	16課．補助動詞	24課．使役・使役受身

全てのレベルにおいて、正確な文法知識の定着と、運用能力を身につけるという学習到達目標を挙げているため、その部分に重点を置いている。各課は、「スタート・トーク」、「意味と使い方」、「練習問題１」、「使い方のポイント」、「練習問題２」、「文作り」、「間違い探し」、「用例見つけた」、「クロージング・トーク」の９つの項目から構成されている。構成内容や詳細は2.5にて授業内活動とともに述べていく。

2．3　授業の進め方

本コースの授業回数は１学期に10回である。教科書は各レベル８課分学習するが、第１回目の授業はクラスオリエンテーション、Moodleの使い方の説明と文法レベルチェックテストであり、第10回目の最終回の授業は期末試験である。

毎回授業の初めに、前週の復習および定着を確認するための小テストを行う。問題数は10問前後で、５分程度で答えられる内容である。答え合わせは学習者同士で答案を交換し採点を行う。採点後、自分の解答を確認し、間違いの修正を行う。小テストの内容は、各課で最も重要な用法や、使い分けを確認する問題が中心となっているが、前回の授業で定着が悪かった項目を確認する問題も含まれている。

小テストが終わったあとに、教科書に沿って練習問題の解答と解説を進めていく。授業時間は１回75分と非常に限られた時間である。したがって、教科書の解説は予習として読んでくることと、練習問題は解いてくることが前提である。授業中は文法項目の意味と使い方を説明するより、学生からの質問や使い方のポイントの確認などに重点を置いた。また、練習問題および文作りの解答を確認すると同時に、フィードバックを行った。特に学習項目の「練習問題２」、「文作り」、「間違い探し」に関しては、学生からも質問が多く出るので、他の活動より十分に時間をとるように留意した。最後に「クロージング・トーク」でその課の内容を盛り込んだ文章をコーラスしたり、覚えたりして１課分の授業を終了する。そして、学生は各自宿題を行う。予習と復習については2.4で説明する。

２．４　e-learningシステムMoodleを利用した宿題

本コースの授業の特徴として、e-learningシステムを利用した予習と復習があげられる。特に初級から中級に移行するJ511に関しては、予習の重要性を何度も説明し、J611、J711クラスやそれ以降の文法レベルでも予習なしには授業での学習効果が現れないことを強調した。

予習は以下の２種類である。

⑴　教科書の説明を読んで問題をすべて解いてくる。

⑵　筑波大学e-learningシステムのMoodleにある問題を解いてくる。

Moodleとは、Web上での授業を支援する筑波大学学習管理システム（Learning Management System）のことである。Moodleの機能の一つとして、教師はコンピューターで作成した課題ファイルをアップロードすることが可能であり、学生はWeb上でその課題を遂行し提出することができる（資料１）。

特に⑵のMoodleの練習問題は、学校以外のコンピューターでも利用でき、学生にとっても利用しやすい環境の宿題である。登録した学生がweb上でいつでも何度でも問題を解くことができ、その場で解答があっているかどうかを確認することができる。ただし、文完成問題のように、自由度の高い問題形式については、正答の確認が取りにくく、予習の段階で正答がわからなかった学生については、授業内で関連する項目をしっかり確認する必要がある。

学習者のMoodleの使用状況や解答状況については、教師はweb上から閲覧できるため、どのくらいの学習者が予習をしているかがわかる。さらに、間違いの多かったところを授業前に把握することができるため、教師にとっても授業の進め方を考える点で非常に参考になった。授業が終わったあとには、復習としてMoodle問題を再び利用することができ、全問正解を目指していく。これは翌週の小テストの勉強や期末試験の勉強にも有効である。そして、教師側は学習者の解答履歴も閲覧できるため、授業後も学習者が復習しているか

どうかや、正解率が上がっているかどうかを把握することもできる。

文法クラスは１クラスが20名を超える場合もあるため、限られた授業時間内で取り上げている文法項目がどの程度定着しているかを確認することは困難である。しかし、Moodleにより、授業外での自主学習状況および定着度が把握できたため、授業運営をする上で有効な手段となった。

2.5　授業内活動

授業内では練習問題の答え合わせと解説、質疑応答に重点を置いていくが、その中でも学習者が産出した誤用や類似表現の使いわけに関しては、特に時間を割いて実施した。以下の表２は教科書の各課の構成と内容であるが、この順に沿って授業は進められていく。このような活動を行っていくには、予習をしてくることと、学習者が積極的に授業に参加していくことが必要不可欠である。そこを踏まえて、文法の授業内で身につけたことを他の技能別授業にどう結び付けていくかが大切になってくる。

表２　各課の構成と内容

構　成	内　　容
スタート・トーク	絵に描かれた場面でどんな表現を使うか考える。
意味と使い方	その課の学習項目の意味と使い方を理解する。
練習問題１ （二者択一方式、10問）	動詞の活用や基本的な意味および構文的特徴を考える。二者択一で選ぶ。
使い方のポイント	「意味と使い方」の説明よりもさらに詳しく説明する。生活の中でどのように、どんな表現と一緒に使うかを解説。コロケーション情報や類似表現との違いなどについて解説する。
練習問題２ （四者択一方式、10問）	表現の使い分けを考える。練習問題１より難易度が上がる。大規模テストに似た問題形式に慣れる。
文作り（10問）	学んだ表現を使って、文を完成させる。
間違い探し（３問）	よく見られる間違いを出題。どこが間違いでどう直すかを自分の力で考える活動。
用例見つけた	物語、説明書、ホームページ、新聞、雑誌などの実際の文章から学習項目が抜き出されたものを紹介。
クロージング・トーク	各課の項目を含んだモデル文を提示。この日に学習した項目の確認。

活動の実践方法は各レベルによって内容が違ってくる。J511（中級初期）の特徴としては、「指示詞」「助詞」「複合助詞」「の・こと・もの」など、語形変化の少ない文型の学習が中心となる。一見難易度が低いようではあるが、初級レベルの文法も併せて使用できて

いるかが大切になる。たとえば、表２の「文作り」に関しては、初級レベルの誤用に対して、教師からは正答を提示せず、学習者に気付かせるように仕向けていった。ターゲットとなる文法を使用していても、文章中の他の動詞や形容詞の語形や語彙選択が不適切なことも多く、この点に関しては周りの学生からコメントしてもらった。これにより、単にターゲット文法を覚えるだけでは運用力が向上しないことを気づかせ、今まで学習した項目も一緒に使用できてはじめて、運用できるということを意識させた。

J611（中級前期）では、J511と同様、語形の変化の少ない項目が大半を占めたが、「条件」、「自動詞・他動詞」、「補助動詞」など、定着するのに時間がかかるものが含まれている。教師は毎回の授業内でその日に取り上げる項目がどのような意味を持っているのかを問い、学習者の可能な日本語で説明させた。そして、この活動を「意味と使い方」や「使い方のポイント」と結び付けて授業を展開した。また、「文作り」では、学習者の産出した文を、学習者同士に文法性判断や、誤用訂正などを行わせた。まとめの活動である教師フィードバックの際に、類似表現の文法項目との意味の区別なども扱い、学習者が持つ文法知識を整理し、正しい知識が定着するような指導を行った。

J711（中級中期）では、敬語および動詞範疇の文法項目が中心である。敬語は初級レベルから扱われる文法項目ではあるが、形の確認を行うと同時に、円滑なコミュニケーションを行う上でどのような敬語の使い方が有効であるかを意識させながら、練習を行った。コース中盤では、推量、判断、伝聞、義務表現など話し手の主観的な考えを相手に伝えるときのモダリティー表現について「そうだ」「ようだ」「らしい」「みたいだ」の基本的な用法とニュアンスの違いなどに注目しながら授業を行った。コースの終盤は、受身、使役、使役受身を中心とするヴォイス表現を取り上げ、視点の置き方、被害性などの意味を確認しながら、授業を行った。使役、受身はどのレベルの学習者においても難易度が高く、定着に時間を要する項目であるが、本コースでは構文的な特徴を確認しつつ、意味的な特徴の理解を中心に授業を進めた。コース終盤になるにつれ、難易度が高くなり、学習項目の理解、使い分けの確認にも比重が置かれた。

本コースの評価は、J511、J611、J711全てにおいて共通していて、毎回の小テスト（合計８回）が成績の30％、最終の期末試験が70％としている。また、出席率は60％以上を条件としている。小テストやMoodleの解答や記録があるため、評価の判断の参考資料として活用することができる。

３．アンケート調査

３．１　目的および概要

アンケート調査の目的は、学習者の日本語能力の自己評価、授業を行う教師および授業内容に関する評価、使用した文法教材の項目および難易度の適切さ、授業内外での活動に

関するものを洗い出し、今後、より質の高い授業を提供するためのデータを収集することである。なお、今回実施したアンケート調査は、2010年度１学期以降、毎学期末に定期的に実施しており、前年度は学習者から高い授業満足度を得ていた（宮崎他 2011）。そして、これらの回答結果は授業改善の際の資料として活用されている。

アンケート調査は、毎学期の期末試験の後に実施しており、2011年度１学期も最終回の期末試験の後に実施した。アンケートは無記名で行い、所要時間は概ね５分程度であった。2011年１学期は、中級初期（J511）が49名[3]、中級前期（J611）が28名、中級中期（J711）が26名の合計103名から回答が得られた。

アンケートで取り上げた質問項目は、学習者自身に関する評価、授業に関する評価、教材に関する評価から構成されている。以上の質問に対しては５段階評価の多肢選択式で回答させた。各段階の評価は、５：とても感じる、４：まあまあ感じる、３：普通、２：あまり感じない、１：ぜんぜん感じないとした。また、アンケートの最後に、教科書、授業、課題、指導教師に対するコメントを自由記述形式で回答させた（資料２）。

3.2　結果と分析

3.2.1　分析方法

回収したアンケート結果はレベルごとに集計された。５段階評価で回答させたものを点数化し、平均値を出した。なお、平均値は小数点以下第２位を四捨五入し、100分率（%）に換算した。

以下では、まず、全体的結果を授業評価、課題および授業活動の順に述べる。その後、各レベルで取り扱った項目に対する学習者評価と、記述コメントに関して報告する。

3.2.2　授業評価、課題、および授業活動に関する回答

表３に授業評価に関する質問項目の回答結果を記す。授業評価に関する質問は、1）日本語が上手になったと感じるか（「達成感」）、2）使用教材では学びたいことを学べたか（「教材の充実度」）、3）使用教材は面白かったか（「教材の面白さ」）、4）この授業に満足したか（「満足度」）の４項目とした。

各設問に対する全体の回答結果を見ると、達成感（80%）、教材の充実度（86%）、教材の面白さ（82%）、満足度（80%）であった。このことから、いずれのレベルの学習者も、授業に対する満足度が高かったと言えるだろう。また、使用教材に対しても学習者が興味を持ち、面白く学習できる教材であったと評価していることがわかった。

表 3　授業に対する満足度

%

レベル	回答者数	達成感	教材の充実度	教材の面白さ	満足度
J511	45名	78	86	82	80
J611	28名	86	86	78	78
J711	26名	78	86	82	82
全体	99名	80	86	82	80

中級レベルの問題点として、先述したように、学習者は「すでに学習した項目の繰り返し」や、「勉強したのでわかっている」という誤解から学習意欲が低下し、その結果、運用力が向上しないという問題がある。しかし、本コースで使用した教材は、学習者のニーズに適合した教材であると同時に、授業に対する満足度も高いことがわかった。すなわち、本コースが目指している実用的な文法クラスの授業実践が、学習者に高い評価が得られたと言えるだろう。

次に、授業内外で課した課題の有用度に対する回答結果を表 4 に示す。質問は、1）Moodleは役に立ったか、2）小テストは役に立ったかの 2 項目であった。この結果から、授業外で予習課題としたMoodleを学習者は有用なものであるとして、肯定的に捉えていた。この結果は、学習者が自身の日本語を上達させるためには、授業外で自主的な学習が必要であると報告しているという許他（2009）を支持している。

また、小テストの有用度に関しても、いずれのレベルの学習者グループにおいても高かった。この結果から、学習者は、授業で学習した項目がどの程度理解できているかを自身で確認できる小テストを肯定的に捉えている。また、小テストを実施した後、その場で採点し、すぐにフィードバックを行う方法も学習者には肯定的に受け止められていたと考えられる。

表 4　課題および小テストの有用度

%

レベル	回答者数	Moodleの有用度	小テストの有用度
J511	45名	82	86
J611	28名	82	90
J711	26名	82	84
全体	99名	82	86

続いて、課題と教材の難易度の回答結果を述べる。学習者には、1）教科書の内容は難しかったか、2）小テストは難しかったかの 2 項目を尋ねた。表 5 が示すとおり、小テス

トの結果は各レベルでほとんど差がなく、すべてのレベルの学習者が毎回の小テストを適切な難易度であると回答していた。

一方、教材の難易度に対する回答は、レベルにより異なっていた。J511とJ611では、普通だったと回答した学習者が最も多く、それぞれ45人中23人（53％）と、28人中20人（71％）であった。それに対して、J711では、まあまあ難しかったという回答が26人中12人（46％）で最も多く、普通だったという回答の26人中10人（38％）を上回っていた。この結果から、活用の少ない学習項目を中心に取りあげたJ511やJ611に比べて、活用の多い学習項目を含み、敬語、様態、判断、使役、受身などの定着に時間を要する項目も含んでいるJ711の内容を、学習者自身も難易度が高いものとして認識していたことがうかがえる。

表５　教材および小テストの難易度（５段階評価）

人

		←易			難→		平均	合計
		1	2	3	4	5		
小テストは難しかったか。	511	3	7	20	15	0	3.0	45
	611	1	6	13	8	0	3.0	28
	711	1	7	12	6	0	2.9	26
教科書の内容は難しかったか。	511	1	16	23	4	1	2.7	45
	611	0	6	20	2	0	2.9	28
	711	0	4	10	12	0	3.3	26

以下では、授業活動に関する回答結果を述べる。分析の対象となる質問は、1）日本語力upに役に立った活動、2）面白かった活動の２項目である。

図１を見ると、J511からJ711までいずれの学習者グループにおいても、「意味と使い方」および「使い方のポイント」を役に立った活動の上位２項目として挙げていた。授業で取り上げている文法項目は既に初級で学び、復習項目が多いものの、正確に理解していなかったり、使い分けに関する知識が十分ではないと感じている学習者が多かった。したがって、授業内のこれらの文法知識に関する説明や類似表現との識別や使い分けなどの学習は、学習者にとって非常に有益であったと思われる。また、すでに学習した項目であっても、正確に理解を深める必要があることに学習者が気づいた結果であるとも言えるだろう。

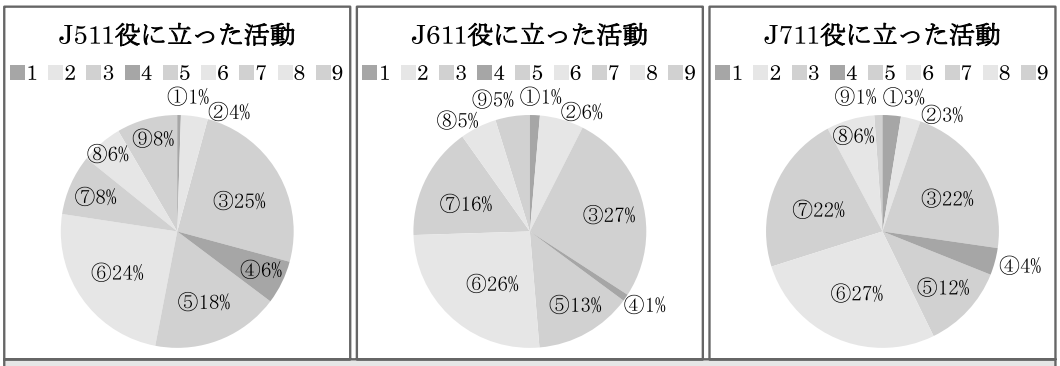


図１　学習者が役に立ったと感じた活動（％）

次に、練習問題に関しては、いくつかの特徴が見られた。文法知識の理解度を測定するために、本教材では二者択一問題と四者択一問題の２種類の多肢選択問題があるが、いずれのレベルにおいても、日本語能力試験等の大規模テストに準拠した四者択一問題がある程度有益な授業活動として評価されていた。そして、学習者の正確な運用力を育成することを目的とした「文作り」に関しては、上記図１によると、J511の学習者グループでは８％とやや低かったものの、J611（16％）とJ711（22％）では、四者択一問題より有益な授業活動としていた。以上をまとめると、中級レベルの学習者は、意味と使い方に関する知識を求めつつも、より挑戦的で実践的な練習問題を求めていることが考えられる。さらに、同じ中級レベルの中でも、習熟度があがるにつれて、より実践的で運用力に即した練習問題を必要としていることが推測される。

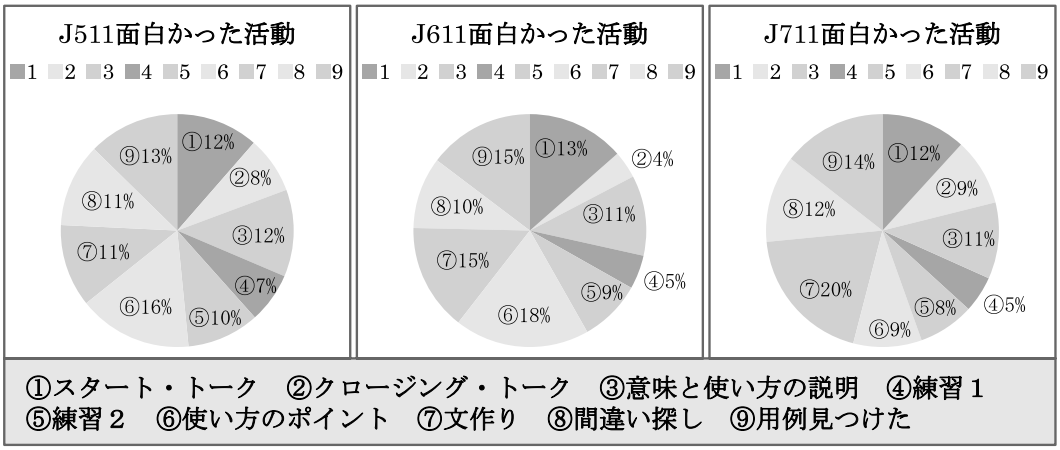


図２　学習者が面白かったと感じた授業活動（％）

ここからは、学習者が面白かったと感じた活動の評価内容を見ていく。前記図２で示されている授業活動への評価では、いずれのレベルの学習者グループにおいても、理解力を測定する多肢選択問題（練習１、練習２）より、運用力を測定する問題（文作り、間違い探し）の評価が高かった。この点についてより詳しく見ると、J511では多肢選択問題の回答結果の合計（17％）と、運用力の問題の回答結果の合計（22％）にあまり差はなかった。これに対して、J611の学習者グループでは、多肢選択問題合計が14％で、運用力の問題の合計が25％、さらにJ711の学習者グループでは、多肢選択問題の合計が13％で、運用力の問題の合計が32％となっていた。この結果から、学習者は、習熟度が上がるにつれて、より挑戦的で難度の高い活動に対して興味と意欲を感じるようになるのではないだろうか。また、文法項目の正確な理解の必要性を意識すると同時に、運用力を身につけるための活動の必要性も感じるようになったと言える。

「用例見つけた」は、すべてのレベルの学習者グループで、全体の中で二番目に高い割合で面白かった活動として評価していた。この結果は、学習者が日常生活の中で使用されている文法項目を確認しながら文章を読むという真正性の高い活動にも興味を持っていることを示していると言えるだろう。

以下では、各レベルで取り上げた学習項目に関する回答結果をJ511、J611、J711の順に見ていく。ここでの質問は、1）教科書の中で面白かった課、2）教科書の中で難しかった課、3）教科書の簡単だった課の3問であった。学習者は自身がコースで学習した８課のうち３課を選択して回答した。

3.3　J511

アンケートの結果、J511の学習課において面白かった課の１位は「目的・願望・可能」（22％）で、２位は「複合助詞」（14％）と「いく・くる」（14％）であった。これらの結果を難易度と照らし合わせると、「目的・願望・可能」は難しかった課の第２位（16％）で、「複合助詞」は第３位（13％）であるが、「いく・くる」は簡単だった課の第１位（22％）であった。J511は他のレベルに比べて、難しいことに挑戦するだけが面白さとはならず、理解できたという達成感も面白さにつながっているようである。教材の内容に関するアンケートの分析結果は、本論集掲載の宮崎他を参照されたい。

また、前記図１の役に立ったと感じた活動については、練習問題（多肢選択式）と回答した学習者が他のレベルに比べてやや多かった。J511の学習者は、初級文法項目を一通り学習して知識を得ているが、使い分けや接続についての訓練はあまりしていない。選択肢の中に誤用例が含まれることも、このレベルにおいては正確さを高めるために効果的であったとうかがえる。

一方、文作りに関しては、他のレベルに比べて「役に立った」、「面白かった」と感じた

学習者は少なかった。初級の学習方法に比べて予習量が増えたため、文作りまでこなすのを難しいと考えた学習者もいると予想される。そして、アンケートの自由記述においても、文作りをしっかり添削してほしいというフィードバックに関連するコメントが見られた。多人数クラスにおける各学生のフィードバックについては、学習者同士が問題解決をしていく中で相互に学んでいくピア活動もあわせて取り入れるなど、さらに検討していく必要がある。

3．4　J611

学習者のアンケート結果を見ると、「自動詞・他動詞」と「補助動詞」が、面白かった課と難しかった課で、ともに１位（23％）、２位（21％）を占めていた。それに対して、「名詞修飾」と「並列」は、面白かった課の７位（５％）、８位（１％）であり、かつ簡単だった課の１位（32％）、２位（30％）であった。すなわち、学習者は難しいと感じている項目に対しては学習意欲も強く、興味を示しているが、簡単だと感じている項目には、学習意欲が低下してしまうおそれがあることがわかった。この結果から、J611の学習者は自身が難しいと感じている内容に対して、より意欲を持って授業に参加していることがわかる。こうした学習者の高い学習意欲を反映したコメントとしては、Moodleの宿題の量を増やしてほしいというもの、より難度の高い練習問題を求めるもの、さらには期末テストの解答を自身の目で確認できる機会がほしいというものなどがあった。

また、前記図２で示した学習者が面白かったと感じた活動に対する回答結果でも、J611では多肢選択式の練習問題１（５％）、練習問題２（９％）に比べて、「文作り」（15％）、「間違い探し」（10％）の割合が高かった。この結果と学習項目に対する回答結果を合わせると、中級前期のJ611の学習者は、中級文法の授業に対し、難度が高くて挑戦的な学習内容を期待しており、運用力を必要とする練習問題を有用だと感じていると思われる。この結果をふまえ、J611ではさらに難易度を上げた学習項目を取り入れ、運用力を向上させるための産出活動を積極的に行う必要があると思われる。

3．5　J711

J711で取り上げている項目の中で、学習者が最も難しいと感じていた課は「使役・使役受身」（23％）、「推量」（20％）、「敬語」（14％）の順になっているが、同時に面白いと感じた課の中に「敬語」（21％）、「使役・使役受身」（17％）が含まれていた。一方、簡単だったと感じた課は「判断・義務」「否定表現」「授受表現」がそれぞれ18％であり、「使役・使役受身」「敬語」以外は大きな差が見られなかった。つまり、難しいと感じている課に偏りがあったものの、それが学習意欲の向上につながり、面白さを感じることにもつながったのではないかと思われる。

前記図１の役に立ったと感じた活動としては、「使い方のポイント」(27％)、「文づくり」(22％)、「意味と使い方の説明」(22％）の順になっており、これら３つの活動で７割を超えていた。その他、前記図２の面白かった活動としては、すべての項目が平均的な割合として表れており、授業に対する満足度からもうかがえるように、練習問題、文作り、間違い探し等の諸活動に興味を持って取り組んでいたといえるだろう。中級中期レベルに達した学習者は、文法項目の使い分けおよび文作りなどの産出力の向上に意識が変化しており、授業に臨む態度にも変化が現れていたことがわかった。

４．まとめと今後の課題

以上、中級レベルの学習者を対象に実施した文法授業の概要および、コース終了時に行ったアンケート調査結果について報告した。

本実践では、中級レベルの文法項目を正確に理解し、適切に運用できる力をつけることを目的として、新たに開発した『実用日本語文法』を使用し、実践的な活動を取り入れた授業を実施した。

アンケート調査を分析した結果、全てのレベルの学習者グループにおいて、授業、教材、学習課題に対して高く評価していることがわかった。また、使用教材や授業内外で課した課題が有用であり、難易度も適切であることも認められた。さらに、練習問題に対する回答からは、知識を測定するものより、自身の運用力を必要とする難易度の高い練習問題に強い興味を感じていることも明らかになった。

また、同じ中級レベルの学習者でも、日本語の習熟度により、学習者の授業における活動や課題に対する興味や有用度が異なっていることも、今回のアンケート結果から見えてきた。具体的には、初級を終えたばかりのJ511では、あまり難易度の高くない学習項目や練習問題に対しても肯定的な評価が見られていたのに対して、J611およびJ711では、より難易度の高い学習項目や運用力を向上させる挑戦的な授業活動に対して、高い満足度や有用度が認められた。

これらの結果をもとに、中級文法の授業を担当する教員は、学習者の日本語習熟度や学習意欲にも十分配慮し、日々の実践に当たることが必要である。J511では、学習者が負担を感じすぎない程度の難易度の課題を提示することや、宿題や小テストのフィードバックにも時間を割くことが望ましい。一方、J611とJ711では、学習者の運用力を向上させたいという意識を授業活動に反映させ、より難易度の高い練習問題を増やしたり、類似表現の使い分けや学習者の産出した誤用分析を行わせるなどの授業活動が効果的ではないだろうか。それとともに、小テストおよびMoodleの学習者の実施状況や結果を日常的に確認することも重要であると思われる。学習者自身は何ができて、何ができないのかという内省を行うことで、自分の能力に応じた授業活動をより効果的に行うことも可能になっていく

だろう。そして、こうした教師の配慮は、学習者の学習意欲を向上させることにもつながっていくと考えられる。

しかし、学習者の文法項目に対する評価が必ずしも学習者自身の能力を反映したものとは言えない。中級項目の学習が進むにつれて難易度の高い項目の学習を期待していることは明らかになったが、その一方で、学習者自身の運用力の不足について、まだ認識が十分とは言えないことも事実である。

中級レベルの学習者が、中級文法項目の知識を正確に理解するとともに、学習者自身の能力を客観的に見て、運用力も習得できるように、今後も担当教員で引き続き授業改善を続け、学習者のニーズに応じた質の高い文法授業を提供していきたい。

注

1．筑波大学留学生センターでは、プレイスメントテストの結果、中級（J500）以上と判定された学生は、自身の能力と目的に合わせて、文法、漢字、話す、読む、聞く、書くの６科目までを履修することが可能である。また、各技能は、必ずしも同じレベルを履修しなくても構わない。

2．初級レベルはJ100からJ400までの４レベルに分かれており、１学期間で各レベル75分授業を週５回で10週間行っている。メインテキストは、筑波ランゲージグループ『SITUATIONAL FUNCTIONAL JAPANESE』Vol.1～3（凡人社）の縮小版を使用している。

3．データ分析の際には、アンケート用紙の記入が不完全だった学習者４名（J511受講者）を除いた。

参考文献

筑波ランゲージグループ（1991）『SITUATIONAL FUCTIONAL JAPANESE』凡人社

鶴町佳子・許明子（2008）「多人数クラスにおける文法授業実践報告―日本語中級前期J511、J514の学習者を対象として―」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』第23号：41-51

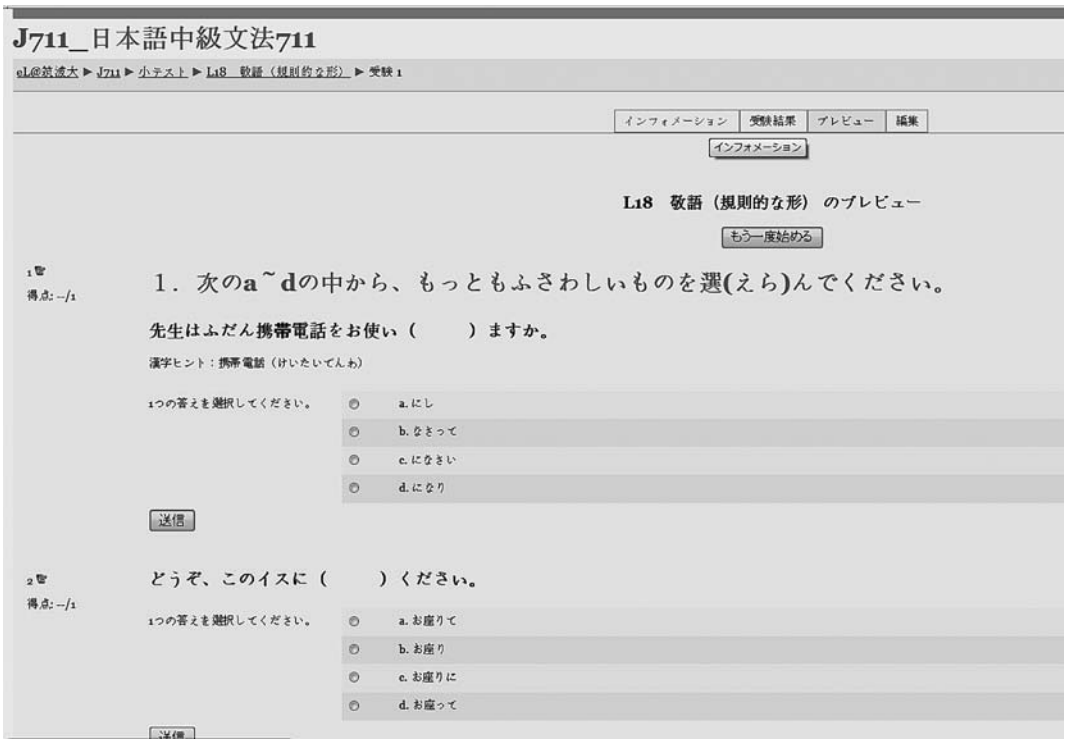
許明子・鶴町佳子（2009）「日本語学習者の中級レベル観」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』第24号：19-38

宮崎恵子・二瓶知子・鈴木秀明・許明子（2011）「中級日本語文法教材『実用日本語文法1・2』の開発及び実践報告」『日本語教育方法研究会会誌』Vol.18, No.1：46-47

宮崎恵子・二瓶知子・許明子（2012）「中級日本語文法教材『実用日本語文法』の開発」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』第27号：137-152

資料１　Moodleの小テスト例１（J511 第１課 指示詞の小テスト）

資料２　Moodleの小テスト例２（J711 第18課 敬語の小テスト）



資料２　アンケート調査用紙

※このアンケート調査は２学期の授業をもっとよくするために行うものです。調査にご協力ください。

中級文法の授業についてのアンケート調査（Ｊ５１１）

（もしよかったら）なまえ：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　国：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

※つぎの質問にいちばん近いと思うものに○を書いてください。

１．１学期間勉強して日本語は上手になったと感じますか。

とても感じる	← まあまあ感じる	← どちらともいえない	→ あまり感じない	→ ぜんぜん感じない

２．教科書（実用日本語１：Ｌ１～Ｌ８）の内容は難しかったですか。

とても難しかった	← まあまあ難しかった	← 普通だった	→ あまり難しくなかった	→ 簡単だった

３．教科書（『中級　実用日本語文法』）ではあなたが学びたいことを学ぶことができましたか。

とてもよく学べた	← まあまあ学べた	← どちらともいえない	→ あまり学べなかった	→ ぜんぜん学べなかった

４．教科書（『中級　実用日本語文法』）の内容はおもしろかったですか。

とてもおもしろかった	← まあまあおもしろかった	← 普通だった	→ あまりおもしろくなかった	→ ぜんぜんおもしろくなかった

５．先生の教え方はあなたの文法理解のために役に立ちましたか。

とても役に立った	← まあまあ役に立った	← どちらともいえない	→ あまり役に立たなかった	→ ぜんぜん役に立たなかった

６．Moodle の宿題は役に立ちましたか。

とても役に立った	← まあまあ役に立った	← どちらともいえない	→ あまり役に立たなかった	→ ぜんぜん役に立たなかった

７．毎週の小テストは、やってよかったと思いますか。

とてもよかった	← まあまあよかった	← どちらともいえない	→ あまりよくなかった	→ やらないほうがよかった

８．毎週の小テストは難しかったですか。

とても難しかった	← まあまあ難しかった	← 普通だった	→ あまり難しくなかった	→ 簡単だった

９．この授業にどの程度、満足しましたか。　　満足（まんぞく）*satisfaction*

とても満足した	← まあまあ満足した	← 普通	→ あまり満足していない	→ ぜんぜん満足していない

※つぎの質問にいちばん近いと思うものの番号を書いてください。

1．教科書の内容の中で、どの課がおもしろかったですか。３つ選んでください。
（　　）（　　）（　　）
① 指示詞　②助詞　③複合助詞　④の・こと・もの
⑤原因・理由　⑥する・なる　⑦いく・くる　⑧目的・可能・願望

2．教科書の内容の中で、どの課が難しかったですか。３つ選んでください。
（　　）（　　）（　　）
① 指示詞　②助詞　③複合助詞　④の・こと・もの
⑤原因・理由　⑥する・なる　⑦いく・くる　⑧目的・可能・願望

3．教科書の内容の中で、どの課が簡単でしたか。３つ選んでください。
（　　）（　　）（　　）
① 指示詞　②助詞　③複合助詞　④の・こと・もの
⑤原因・理由　⑥する・なる　⑦いく・くる　⑧目的・可能・願望

4．各課の活動の中で、あなたの日本語能力を高めるのにどの活動が役に立ちましたか。３つ選んでください。
（　　）（　　）（　　）
①スタート・トーク　②クロージング・トーク　③意味と使い方の説明
④練習１（２つの中から選ぶ）　⑤練習２（４つの中から選ぶ）
⑥使い方のポイント　⑦文づくり　⑧間違い探し　⑨用例見つけた！

5．各課の活動の中で、どれがおもしろかったですか。３つ選んでください。
（　　）（　　）（　　）
①スタート・トーク　②クロージング・トーク　③意味と使い方の説明
④練習１（２つの中から選ぶ）　⑤練習２（４つの中から選ぶ）
⑥使い方のポイント　⑦文づくり　⑧間違い探し　⑨用例見つけた！

6． 教科書、授業、Moodle の宿題、先生などについて、コメントがあったら何でも自由に書いてください。